菱刈町の錫杖踊

【所 在 地】伊佐市菱刈町下手(錫杖踊保存会)

【種 別】県指定無形民俗文化財

【指定年月日】昭和37年10月24日



錫 杖 踊 の由来は,永禄年間(1558 ~ 1570 年)に島津義久が北薩の豪族菱刈隆秋を大口城に攻めたとき,難渋したので,弟の義弘は水天神社に戦勝祈願をしたところ,たちまち霊験があって堅固な城も落ちた。義弘が水天神社に戦勝及び社殿寄進の祝典をしたとき,近くの黒坂寺の修験者盛良法印が創案したこの踊りを奉納したという。以来,同神社例祭(新暦 11 月 28 日)の奉納踊りとなった。踊り手は男子青壮年 12 人から 16 人と歌い手2,3人で,服装は踊り手は紺がすりに白襦袢(下着)を着てもろ肌ぬぎ,白鉢巻に白帯をして垂らし,白足袋にワラジをはく。踊りは二列隊形で左手にカマ,右手に錫杖を持ち,歌い手がうたう歌に合わせて,錫杖をシャラッ,シャラッと小気味よく振り鳴らしながら踊る。修験山伏の影響をしのばせる踊りである。

参考

錫 杖とは 山伏(修験者)や僧侶が使う法具の1つで,頭部に大きな円環があり,それに数個の小さな環がついていて,振ると鳴る。毒虫や厄(悪霊)をはらう法具といわれ,柄の長い錫杖と短い手錫杖がある。錫杖踊に使うのは手錫杖のほうで,飾りに紙の切幣を三段につけて使う。